



校長室だより

第 4 9 号
令和4年2月24日(木)
大崎市立沼部小学校
校長 吉田 浩之

あの日を忘れない ～大崎市古川編～

平成23年に発生した東日本大震災では、津波による被害が大きかったため、沿岸部の被害がクローズアップされることが多いです。古川では震度6強、栗原市では震度7が観測され、内陸の分津波の被害はないものの、思っていた以上に被害がありました。内陸の様子についても伝えていく必要があると思っています。

宮城県図書館では、蔵書のほとんどが落下し、館内にいることは危険だということで、発災から30分後には、職員はみな帰宅するように上司から言われました。通常だと宮城県図書館から自宅までは通勤におよそ1時間要します。あの揺れで停電が発生し、信号がすべて消えていました。特に大和警察署付近では大変な渋滞が発生していました。家に着くまで、3時間以上要しました。家に着いて確認したところ、本棚の本は全部落下し、食器棚からも食器が落ちて散乱していました。大きなタンスが30cmほどずれていました。妻の実家が栗原市一迫で、様子をうかがいに行こうとしたところ、途中道路が陥没していたところにはまってしまい、タイヤがパンクしました。ヘッドライトと携帯の明かりを頼りになんとかタイヤ交換しました。

次の日は土曜日で、本来ならば勤務なのですが、上の息子が進学のため長野県松本市に行くことが決まっており、アパートを探しに行くため、たまたま休みを取っていました。ラジオを中心に情報収集し、沿岸部は大変なことになっていることはうすうす分かっていました。自分の住んでいるところはどうなっているのだろうと思い、息子の自転車を借り、市内の様子を見に行きました。近所のケーズデンキは、揺れにより、スプリンクラーが誤作動を起こしてしまい、店内が水浸しでした。ありがたかったのが、水難を逃れた乾電池を無料で配布してくれたことです。コンビニの入り口が掲示板化しており、商品がないというお知らせと、古川南中学校の休校についてのお知らせが貼ってありました。さらに回ってみると、倒壊した家やカーディーラーの窓ガラスがすべて飛び散っている様子、地震により地割れが発生し、その地割れにタイヤの半分以上が埋まってしまったトラック数台、大きく傾いた電柱など確認できました。生協の店舗では、食料品等を10点1,000円で販売していました。停電していますから、レジも打てません。それでも利益を度外視し、何かの役に立てばと営業をしてくれた店の方などに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

このあと、ガソリンが購入できなくなります。「あそこのスタンドでは、0日に10%入れられそうだ。」などの情報を頼りに、夜通し並んでガソリンを購入したこともありました。

